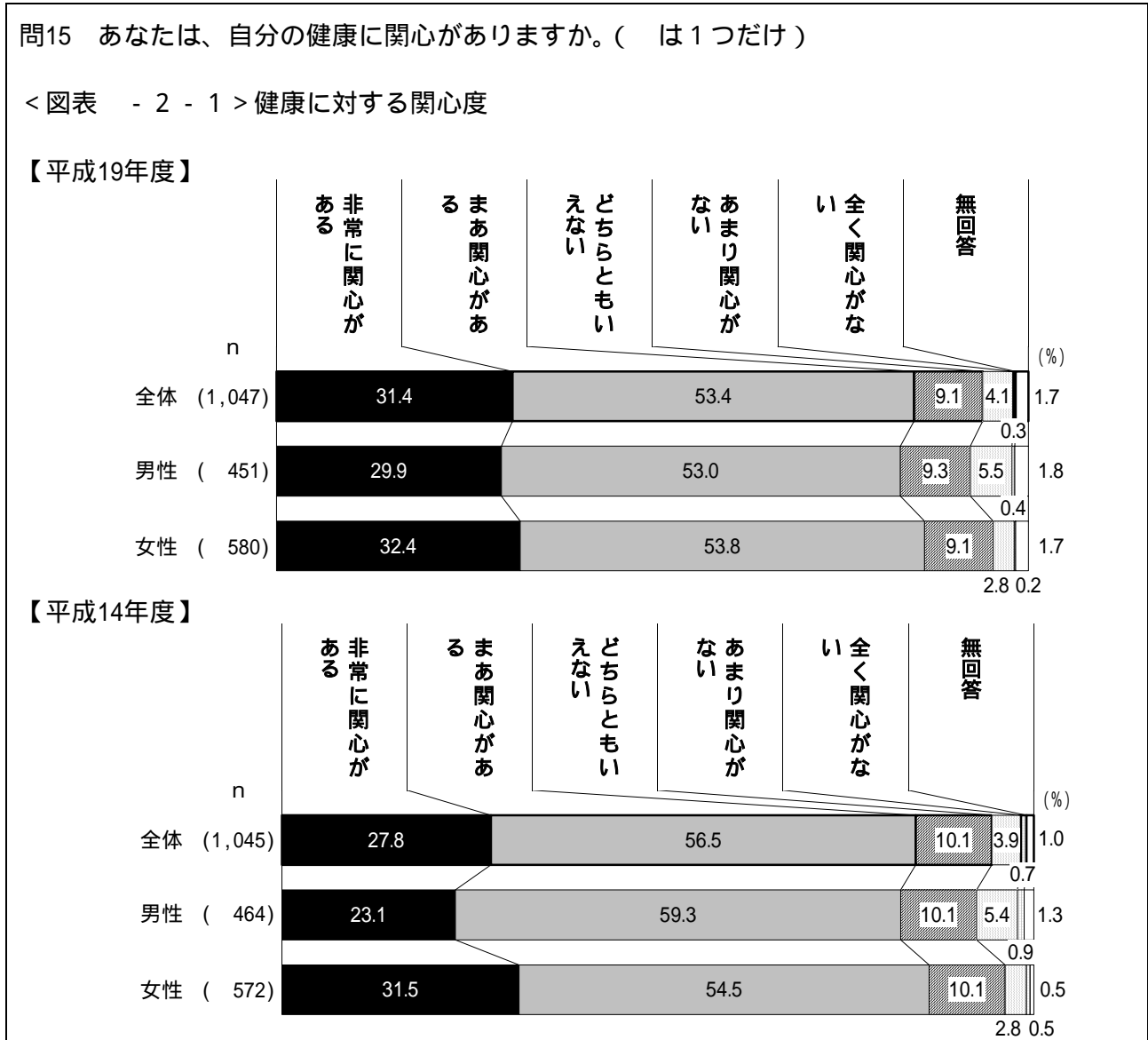


2 健康づくりについて

(1) 健康に対する関心度

《関心がある》が8割台半ばと高い



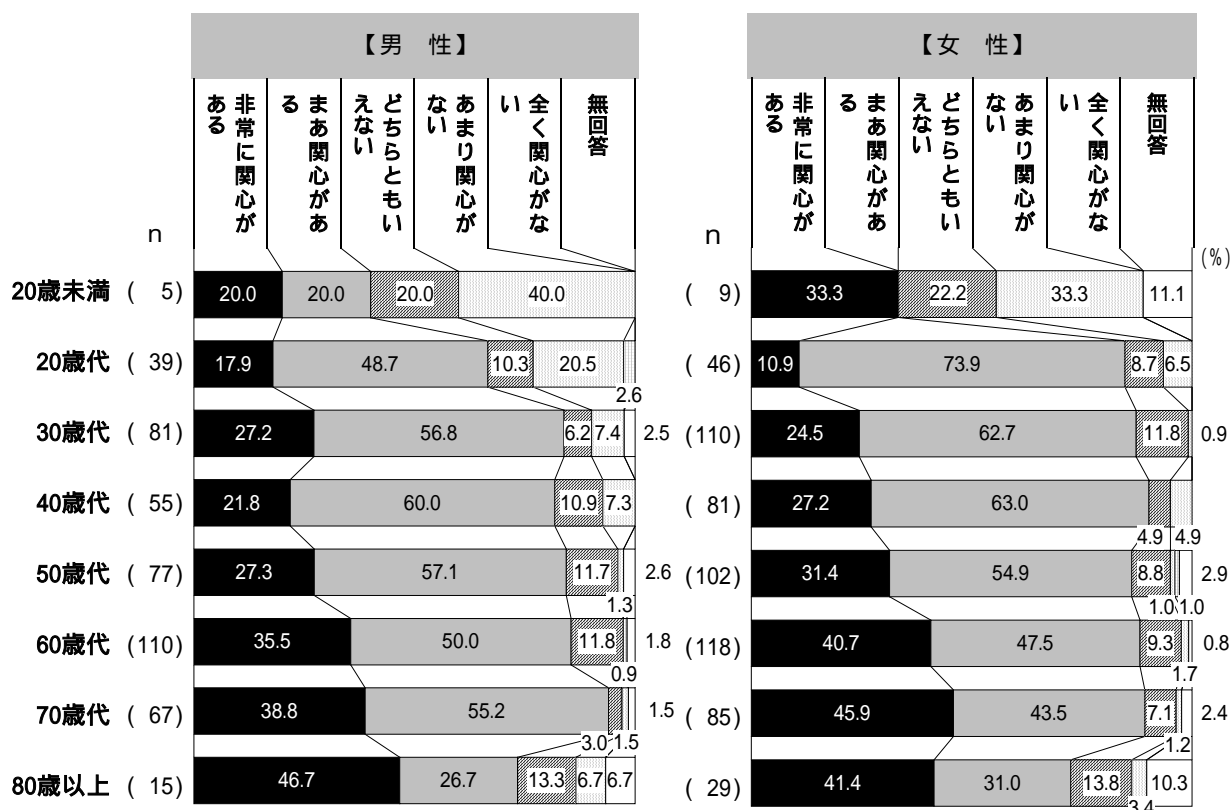
健康に対する関心度としては、「非常に興味がある」(31.4%)が3割を超える。「まあ興味がある」(53.4%)が5割台半ばで最も高く、これらを合わせると《関心がある》(84.8%)が8割台半ばと関心の高さが伺える。「どちらともいえない」(9.1%)は約1割で、「あまり関心がない」(4.1%)と「全く関心がない」(0.3%)を合わせた、《関心がない》(4.4%)は5%に満たない。

性別では、特に大きな違いはみられない。

平成14年度と比較すると、全体では、特に大きな違いはみられない。性別では、男性で「非常に興味がある」が7ポイント増加し、「まあ興味がある」が6ポイント減少している。(図表 - 2 - 1)

【性 / 年齢別】

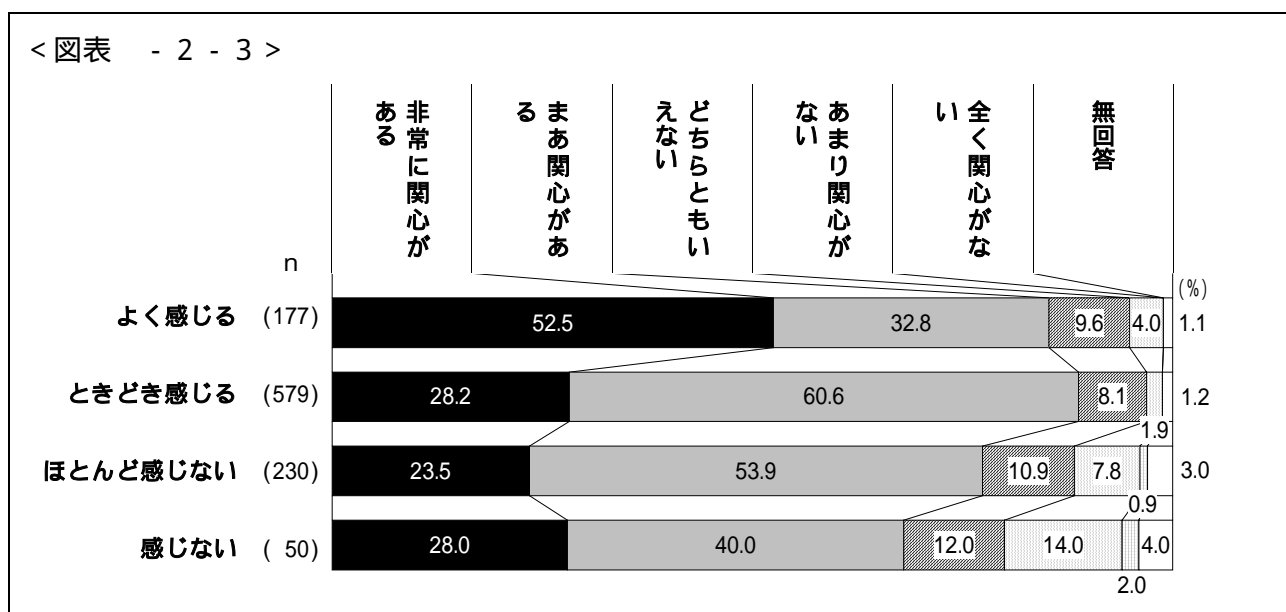
< 図表 - 2 - 2 >



男女ともに“20歳未満”と“80歳以上”は、人数が少ないので参考として図示するに留め、文中では述べていない。

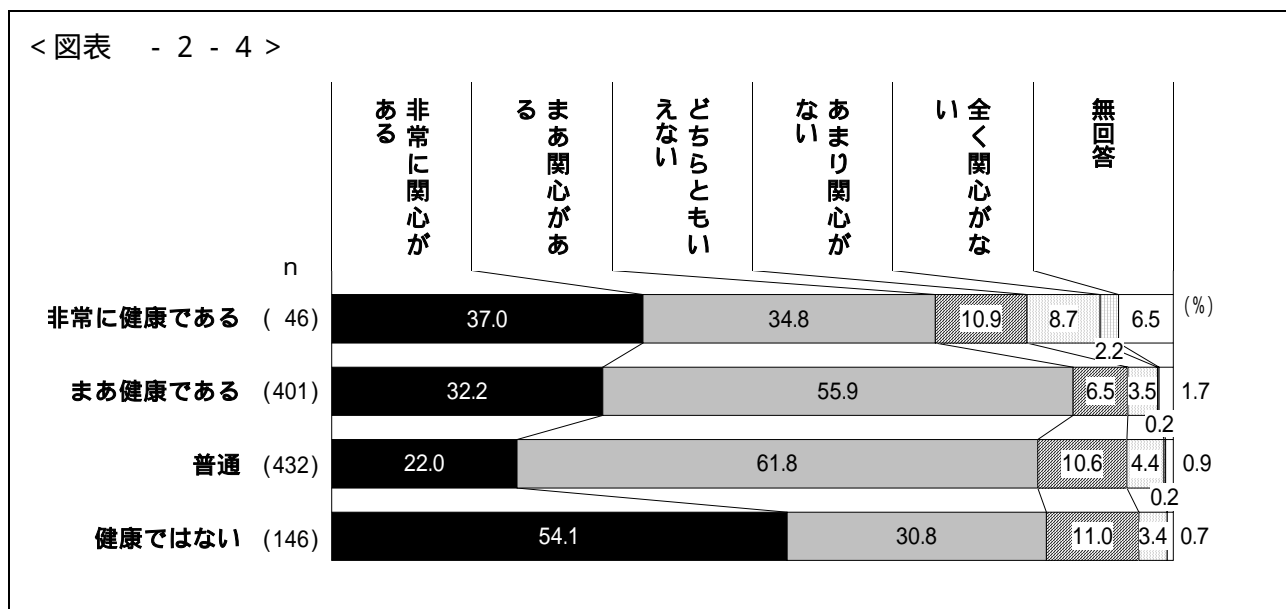
男性では「非常に興味がある」がおおむね年齢が上がるほど漸増する傾向にあり、70歳代で約4割となり、《関心がある》でも、この層は9割台半ばと高くなっている。逆に、《関心がない》は20歳代で2割台半ばと高い。一方、女性でも、「非常に興味がある」はおおむね年齢が上がるほど漸増する傾向にあり、70歳代で4割台半ばとなっている。《関心がある》は、40歳代で9割と最も高くなっているが、それ以外の年齢層も8割台と全般的に関心は高い。(図表 - 2 - 2)

【健康への不安感別】



『問 8 - 1 健康への不安感』の回答別でみると、おおむね“不安を感じる”人ほど関心度は高い傾向にあり、逆に、“不安を感じない”人ほど関心度は低くなっている。(図表 - 2 - 3)

【健康状態（主観的）別】



『問13 健康状態（主観的）』の回答別でみると、「非常に興味がある」では、“非常に健康である”人と“健康ではない”人の両方で高く、特に、“健康ではない”人では5割台半ばとなっている。(図表 - 2 - 4)

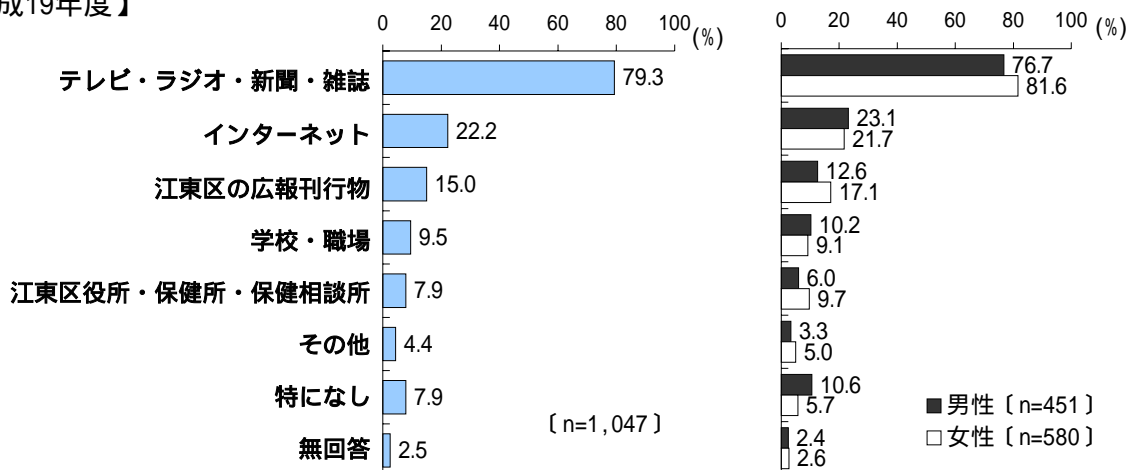
(2) 健康に関する情報源

「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」が約8割で突出

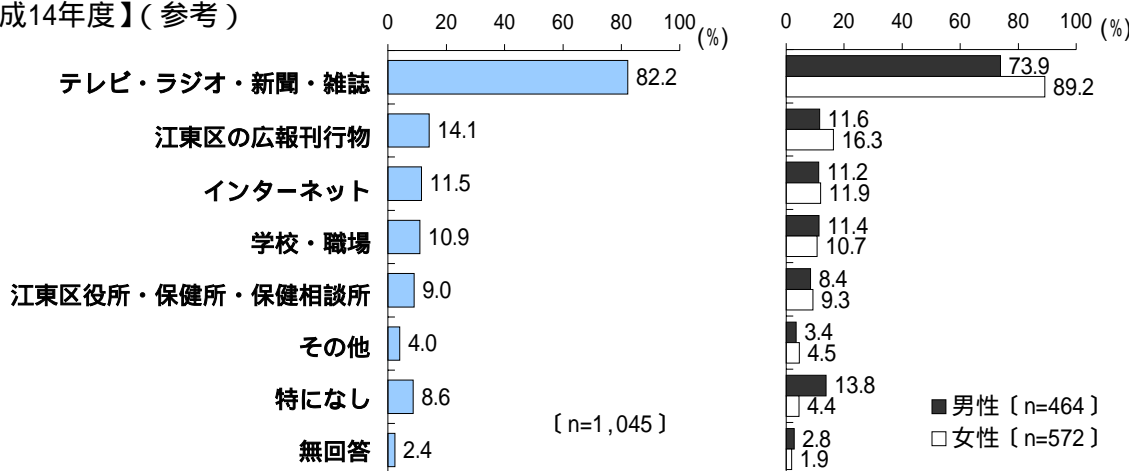
問16 健康づくりや生活改善に関する知識をどのようなところから得ようと思いますか。
(はいくつでも)

<図表 - 2 - 5> 健康に関する情報源

【平成19年度】



【平成14年度】(参考)



健康に関する情報源としては、「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」(79.3%)が約8割で突出し、次いで、「インターネット」(22.2%)が2割を超え、「江東区の広報刊行物」(15.0%)が1割台半ばとなっている。このほか、「学校・職場」(9.5%)と「江東区役所・保健所・保健相談所」(7.9%)は約1割である。

性別で見ると、「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」と「江東区の広報刊行物」は、女性の方が男性よりも5ポイント高くなっている。逆に、「特になし」は男性の方が5ポイント高い。

平成14年度との比較については、設問文が異なることから、参考までに図示するに留める。(図表 - 2 - 5)

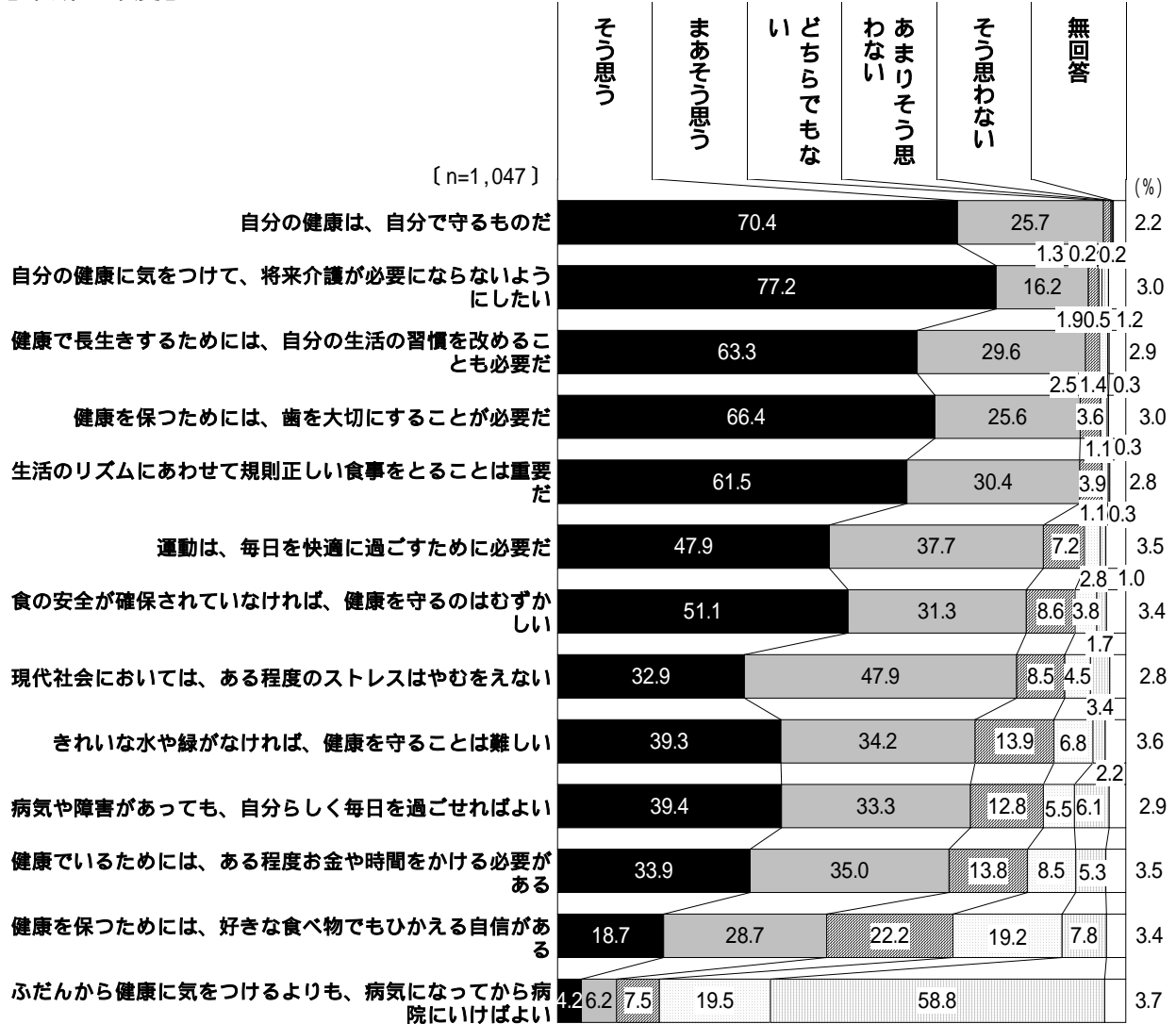
(3) 健康に関する考え方

《肯定派》は「自分の健康は、自分で守るものだ」が9割台半ばで最も高い

問17 健康に関するそれぞれの考え方について、あなたのお考えに最も近いものの番号を選んでください。(はそれぞれ1つずつ)

< 図表 - 2 - 6 > 健康に関する考え方

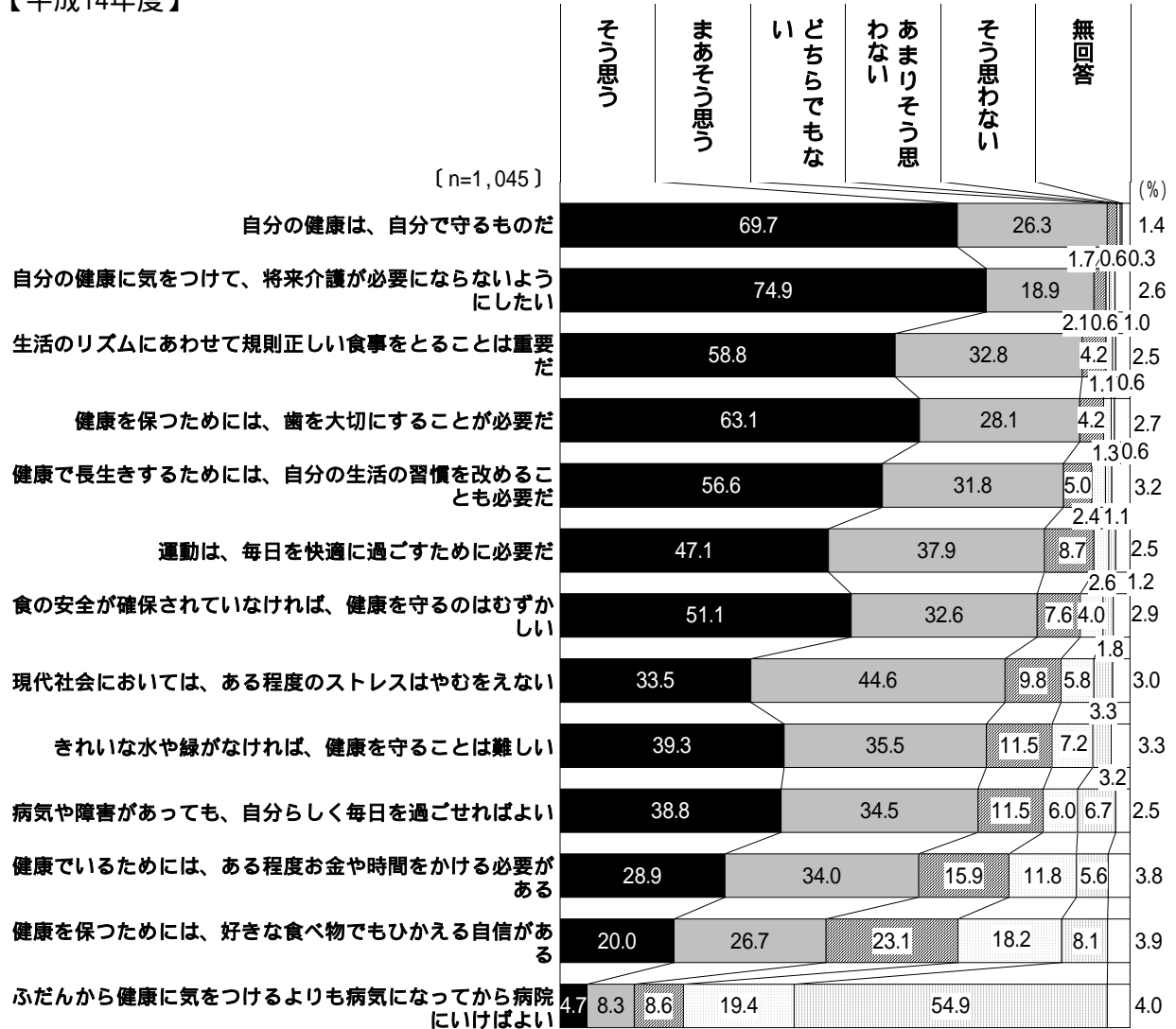
【平成19年度】



この図表は《肯定派》の比率が高い項目順に並べ替えている。

< 図表 - 2 - 7 >

【平成14年度】



この図表は《肯定派》の比率が高い項目順に並べ替えている。

健康に関する考え方を、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせて《肯定派》、「あまりそう思わない」と「そう思わない」を合わせて《否定派》と仮定し、それぞれの上位5項目を整理すると次のようになる。

《肯定派》

自分の健康は、自分で守るものだ	96.1%
自分の健康に気をつけて、将来介護が必要にならないようにしたい.....	93.4
健康で長生きするためには、自分の生活の習慣を改めることも必要だ.....	92.9
健康を保つためには、歯を大切にすることが必要だ.....	92.0
生活のリズムにあわせて規則正しい食事をとることは重要だ.....	91.9

《否定派》

ふだんから健康に気をつけるよりも、病気になってから病院にいけばよい.....	78.3%
健康を保つためには、好きな食べ物でもひかえる自信がある.....	27.0
健康であるためには、ある程度お金や時間をかける必要がある.....	13.8
病気や障害があっても、自分らしく毎日を過ごせればよい.....	11.6
きれいな水や緑がなければ、健康を守る事は難しい.....	9.0

《否定派》で「ふだんから健康に気をつけるよりも、病気になってから病院にいけばよい」の比率が高いことは、健康に関する考え方が肯定的であると捉える必要がある。

平成14年度と比較すると、《肯定派》が「健康であるためには、ある程度お金や時間をかける必要がある」で6ポイント、「健康で長生きするためには、自分の生活の習慣を改めることも必要だ」で5ポイント増加している。

また、順位で見ると、平成14年度は《肯定派》の5位だった「健康で長生きするためには、自分の生活の習慣を改めることも必要だ」が今回調査では3位となっており、逆に、平成14年度は3位だった「生活のリズムにあわせて規則正しい食事をとることは重要だ」が、今回調査では5位へと順位を落としている。(図表 - 2 - 6 ~ 7)

【性別】

< 図表 - 2 - 8 >

	《肯定派》 （「そう思う」+「まあそう思う」） 8割以上の項目	《否定派》 （「あまりそう思わない」+「そう思わない」） 2割以上の項目
男性	自分の健康は、自分で守るものだ(95.6%) 自分の生活の習慣を改めることも必要だ(92.7%) 将来介護が必要にならないようにしたい(91.1%) 規則正しい食事をとることは重要だ(90.5%) 歯を大切にすることが必要だ(88.4%) 運動は、毎日を快適に過ごすために必要だ(83.1%) 食が安全でないと健康を守るのはむずかしい(82.0%)	気をつけるより病気になってから病院に行く(77.4%) 好きな食べ物でもひかえる自信がある(26.8%)
女性	自分の健康は、自分で守るものだ(96.6%) 将来介護が必要にならないようにしたい(95.4%) 歯を大切にすることが必要だ(95.0%) 自分の生活の習慣を改めることも必要だ(93.3%) 規則正しい食事をとることは重要だ(93.3%) 運動は、毎日を快適に過ごすために必要だ(87.6%) 食が安全でないと健康を守るのはむずかしい(83.3%) 現代では、ある程度のストレスはやむをえない(82.2%)	気をつけるより病気になってから病院に行く(79.1%) 好きな食べ物でもひかえる自信がある(27.1%)

図表中の番号は、その層での順位を表す。

《否定派》で「ふだんから健康に気をつけるよりも、病気になってから病院にいけばよい」の比率が高いことは、健康に関する考え方が肯定的であると捉える必要がある。

紙面の都合上、項目は次のように省略している。以下、表に関してはこの表記とする。

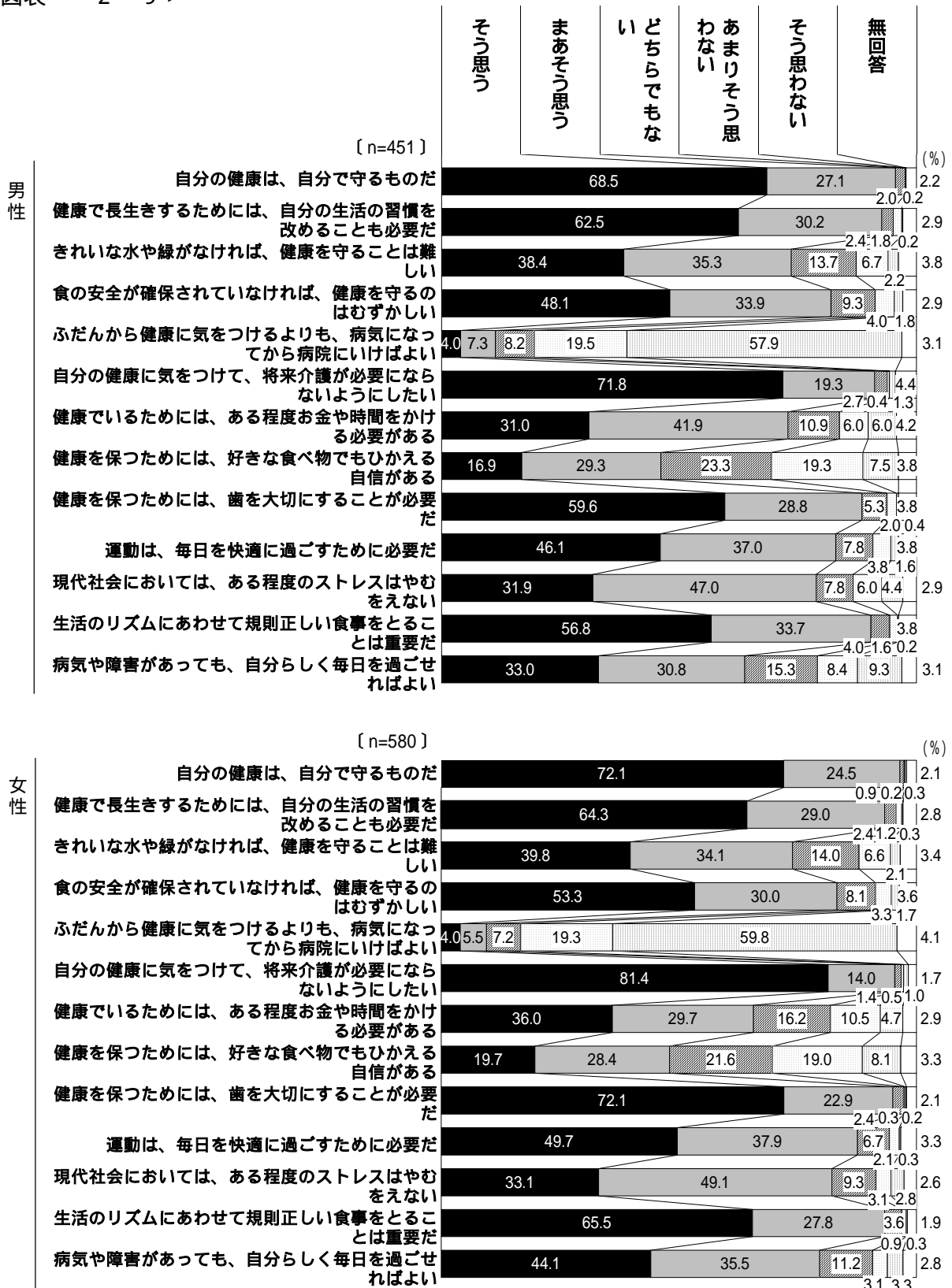
正規	省略文
健康で長生きするためには、自分の生活の習慣を改めることも必要だ	自分の生活の習慣を改めることも必要だ
きれいな水や緑がなければ、健康を守ることは難しい	きれいな環境でなければ健康を守るのは難しい
食の安全が確保されていなければ、健康を守るのはむずかしい	食が安全でないと健康を守るのはむずかしい
ふだんから健康に気をつけるよりも、病気になってから病院にいけばよい	気をつけるより病気になってから病院に行く
自分の健康に気をつけて、将来介護が必要にならないようにしたい	将来介護が必要にならないようにしたい
健康であるためには、ある程度お金や時間をかける必要がある	健康には、ある程度お金や時間が必要である
健康を保つためには、好きな食べ物でもひかえる自信がある	好きな食べ物でもひかえる自信がある
健康を保つためには、歯を大切にすることが必要だ	歯を大切にすることが必要だ
現代社会においては、ある程度のストレスはやむをえない	現代では、ある程度のストレスはやむをえない
生活のリズムにあわせて規則正しい食事をとることは重要だ	規則正しい食事をとることは重要だ
病気や障害があっても、自分らしく毎日を過ごせればよい	病気等があっても、自分らしく過ごせればよい

《肯定派》からは、その比率が8割以上の項目を抽出した。一方、《否定派》からは、その比率が2割以上の項目を抽出した。

《肯定派》では、男女ともに「自分の健康は、自分で守るものだ」、「健康で長生きするためには、自分の生活の習慣を改めることも必要だ」、「食の安全が確保されていなければ、健康を守るのはむずかしい」、「自分の健康に気をつけて、将来介護が必要にならないようにしたい」、「健康を保つためには、歯を大切にすることが必要だ」、「運動は、毎日を快適に過ごすために必要だ」、「生活のリズムにあわせて規則正しい食事をとることは重要だ」の7項目がいずれも8割を超え、女性では「現代社会においては、ある程度のストレスはやむをえない」も8割を超える。ただし、その構成は性別で若干異なっており、差が目立つものには、女性が男性を上回る「健康を保つためには、歯を大切にすることが必要だ」の7ポイント、「運動は、毎日を快適に過ごすために必要だ」の5ポイント差などがある。

逆に、《否定派》は男女ともに、「ふだんから健康に気をつけるよりも、病気になってから病院にいけばよい」と「健康を保つためには、好きな食べ物でもひかえる自信がある」が高くなっている。なお、「ふだんから健康に気をつけるよりも、病気になってから病院にいけばよい」が高いことは、それだけ健康に関する考え方が肯定的なことであると考えられる。(図表 - 2 - 8 ~ 9)

< 図表 - 2 - 9 >



【性 / 年齢別】

< 図表 - 2 - 10 >

		《肯定派》 （「そう思う」+「まあそう思う」） 8割以上の項目	
		男性	女性
20歳未満	自分の健康は、自分で守るものだ（100.0%） きれいな環境でなければ健康を守るのは難しい（100.0%） 食が安全でないと健康を守るのはむずかしい（100.0%） 将来介護が必要にならないようにしたい（100.0%） 規則正しい食事をとることは重要だ（100.0%） 病気等があっても自分らしく過ごせればよい（100.0%） 自分の生活の習慣を改めることも必要だ（80.0%） 歯を大切にすることが必要だ（80.0%） 運動は、毎日を快適に過ごすために必要だ（80.0%） 現代では、ある程度のストレスはやむをえない（80.0%）	自分の健康は、自分で守るものだ（88.9%） 自分の生活の習慣を改めることも必要だ（88.9%） 現代では、ある程度のストレスはやむをえない（88.9%）	
20歳代	自分の健康は、自分で守るものだ（94.9%） 自分の生活の習慣を改めることも必要だ（94.9%） 規則正しい食事をとることは重要だ（92.3%） 将来介護が必要にならないようにしたい（89.7%） 食が安全でないと健康を守るのはむずかしい（84.6%） 現代では、ある程度のストレスはやむをえない（82.0%）	自分の健康は、自分で守るものだ（100.0%） 歯を大切にすることが必要だ（100.0%） 将来介護が必要にならないようにしたい（95.6%） 運動は、毎日を快適に過ごすために必要だ（93.5%） 規則正しい食事をとることは重要だ（93.5%） 自分の生活の習慣を改めることも必要だ（89.1%） 食が安全でないと健康を守るのはむずかしい（87.0%）	
30歳代	自分の健康は、自分で守るものだ（96.3%） 自分の生活の習慣を改めることも必要だ（93.8%） 将来介護が必要にならないようにしたい（90.1%） 歯を大切にすることが必要だ（88.9%） 規則正しい食事をとることは重要だ（86.4%） 食が安全でないと健康を守るのはむずかしい（81.5%） 運動は、毎日を快適に過ごすために必要だ（81.5%）	将来介護が必要にならないようにしたい（99.1%） 自分の生活の習慣を改めることも必要だ（98.2%） 自分の健康は、自分で守るものだ（97.2%） 歯を大切にすることが必要だ（97.2%） 規則正しい食事をとることは重要だ（94.5%） 運動は、毎日を快適に過ごすために必要だ（93.6%） 食が安全でないと健康を守るのはむずかしい（83.6%） 現代では、ある程度のストレスはやむをえない（80.0%）	
40歳代	自分の健康は、自分で守るものだ（98.1%） 自分の生活の習慣を改めることも必要だ（96.4%） 規則正しい食事をとることは重要だ（96.4%） 将来介護が必要にならないようにしたい（90.9%） 運動は、毎日を快適に過ごすために必要だ（87.3%） 歯を大切にすることが必要だ（85.4%） 現代では、ある程度のストレスはやむをえない（81.8%）	自分の健康は、自分で守るものだ（98.7%） 自分の生活の習慣を改めることも必要だ（98.7%） 将来介護が必要にならないようにしたい（96.3%） 歯を大切にすることが必要だ（96.3%） 規則正しい食事をとることは重要だ（93.8%） 運動は、毎日を快適に過ごすために必要だ（88.9%） 現代では、ある程度のストレスはやむをえない（85.2%） 食が安全でないと健康を守るのはむずかしい（83.9%）	
50歳代	将来介護が必要にならないようにしたい（96.1%） 自分の健康は、自分で守るものだ（93.5%） 歯を大切にすることが必要だ（92.2%） 自分の生活の習慣を改めることも必要だ（89.6%） 運動は、毎日を快適に過ごすために必要だ（87.1%） 規則正しい食事をとることは重要だ（87.0%） 食が安全でないと健康を守るのはむずかしい（83.2%）	自分の健康は、自分で守るものだ（96.1%） 規則正しい食事をとることは重要だ（95.1%） 歯を大切にすることが必要だ（95.0%） 自分の生活の習慣を改めることも必要だ（93.1%） 将来介護が必要にならないようにしたい（92.2%） 運動は、毎日を快適に過ごすために必要だ（83.3%） 現代では、ある程度のストレスはやむをえない（82.4%） 食が安全でないと健康を守るのはむずかしい（82.3%）	

（次ページに続く）

< 図表 - 2 - 11 >

《肯定派》 (「そう思う」+「まあそう思う」) 8割以上の項目		
	男性	女性
60歳代	自分の生活の習慣を改めることも必要だ (96.4%) 自分の健康は、自分で守るものだ (96.3%) 将来介護が必要にならないようにしたい (96.3%) 規則正しい食事をとることは重要だ (95.5%) 歯を大切にすることが必要だ (90.9%) 食が安全でないと健康を守るのはむずかしい (86.3%) 運動は、毎日を快適に過ごすために必要だ (84.5%) 現代では、ある程度のストレスはやむをえない (80.9%)	自分の健康は、自分で守るものだ (98.4%) 将来介護が必要にならないようにしたい (98.3%) 歯を大切にすることが必要だ (96.7%) 自分の生活の習慣を改めることも必要だ (94.9%) 規則正しい食事をとることは重要だ (94.0%) 運動は、毎日を快適に過ごすために必要だ (92.4%) 食が安全でないと健康を守るのはむずかしい (90.7%) 病気等があっても自分らしく過ごせればよい (89.0%) 現代では、ある程度のストレスはやむをえない (86.5%) きれいな環境でなければ健康を守るのは難しい (81.4%)
70歳代	自分の健康は、自分で守るものだ (97.0%) 歯を大切にすることが必要だ (92.5%) 自分の生活の習慣を改めることも必要だ (89.6%) 食が安全でないと健康を守るのはむずかしい (88.1%) 規則正しい食事をとることは重要だ (88.1%) 将来介護が必要にならないようにしたい (86.5%) 現代では、ある程度のストレスはやむをえない (85.1%) 病気等があっても自分らしく過ごせればよい (83.6%) きれいな環境でなければ健康を守るのは難しい (82.1%)	将来介護が必要にならないようにしたい (96.4%) 自分の健康は、自分で守るものだ (95.3%) 規則正しい食事をとることは重要だ (94.2%) 歯を大切にすることが必要だ (93.0%) 自分の生活の習慣を改めることも必要だ (87.1%) 病気等があっても自分らしく過ごせればよい (85.9%) 運動は、毎日を快適に過ごすために必要だ (82.4%) 現代では、ある程度のストレスはやむをえない (81.1%)
80歳以上	自分の健康は、自分で守るものだ (86.7%) 自分の生活の習慣を改めることも必要だ (80.0%) 運動は、毎日を快適に過ごすために必要だ (80.0%) 現代では、ある程度のストレスはやむをえない (80.0%) 規則正しい食事をとることは重要だ (80.0%) 病気等があっても自分らしく過ごせればよい (80.0%)	自分の健康は、自分で守るものだ (82.8%) 歯を大切にすることが必要だ (82.7%) 病気等があっても自分らしく過ごせればよい (82.7%)

男女ともに“20歳未満”と“80歳以上”は、人数が少ないので参考として図示するに留め、文中では述べていない。
 図表中の番号は、その年齢層での順位を表す。
 項目名に下線が引いてあるものは、各年齢層で性別を比べた際に、一方の性には含まれていない項目である。

性別と同様に、ここでも《肯定派》が8割以上の項目を抽出した。

項目数で見ると、20歳～50歳代は女性の方が男性よりもそれぞれ1項目ずつ、60歳代は女性の方が男性よりも2項目多くなっている。逆に、70歳代は男性の方が女性よりも1項目多い。

また、それぞれの年齢層について、性別による違いを整理すると次のようになる。ただし、性別間の差を記述する場合は、5ポイント差以上の項目に限っている。(図表 - 2 - 10～19)

20歳代

男性では「現代社会においては、ある程度のストレスはやむをえない」がある一方で、女性には「健康を保つためには、歯を大切にすることが必要だ」と「運動は、毎日を快適に過ごすために必要だ」がある。

差が目立つのは、「健康で長生きするためには、自分の生活の習慣を改めることも必要だ」は男性の方が女性よりも6ポイント高くなっている。逆に、女性の方が男性よりも高いものには、「自分の健康に気をつけて、将来介護が必要にならないようにしたい」で6ポイント、「自分の健康は、自分で守るものだ」で5ポイント差がみられる。

30歳代

女性にあり、男性にない項目として「現代社会においては、ある程度のストレスはやむをえない」がある。

同じ項目を比較すると、女性の方が男性よりも高いものが多く、差が目立つものを順に列挙すると、「運動は、毎日を快適に過ごすために必要だ」で12ポイント、「自分の健康に気をつけて、将来介護が必要にならないようにしたい」で9ポイント、「健康を保つためには、歯を大切にすることが必要だ」と「生活のリズムにあわせて規則正しい食事をとることは重要だ」で8ポイント差などがある。

40歳代

女性にあり、男性にない項目として「食の安全が確保されていなければ、健康を守るのはむずかしい」がある。

同じ項目を比較すると、女性の方が男性よりも高いものが多く、「健康を保つためには、歯を大切にすることが必要だ」で11ポイント、「自分の健康に気をつけて、将来介護が必要にならないようにしたい」で5ポイント差などがある。

50歳代

女性にあり、男性にない項目として「現代社会においては、ある程度のストレスはやむをえない」がある。

同じ項目を比較すると、差が目立つのは、「生活のリズムにあわせて規則正しい食事をとることは重要だ」で女性の方が男性よりも8ポイント高くなっている。

60歳代

女性にあり、男性にない項目は「病気や障害があっても、自分らしく毎日を過ごせればよい」と「きれいな水や緑がなければ、健康を守ることは難しい」である。

同じ項目を比較すると、女性の方が男性よりも高いものが多く、差が目立つものを順に列挙すると、「運動は、毎日を快適に過ごすために必要だ」で8ポイント、「健康を保つためには、歯を大切にすることが必要だ」と「現代社会においては、ある程度のストレスはやむをえない」で6ポイント差などがある。

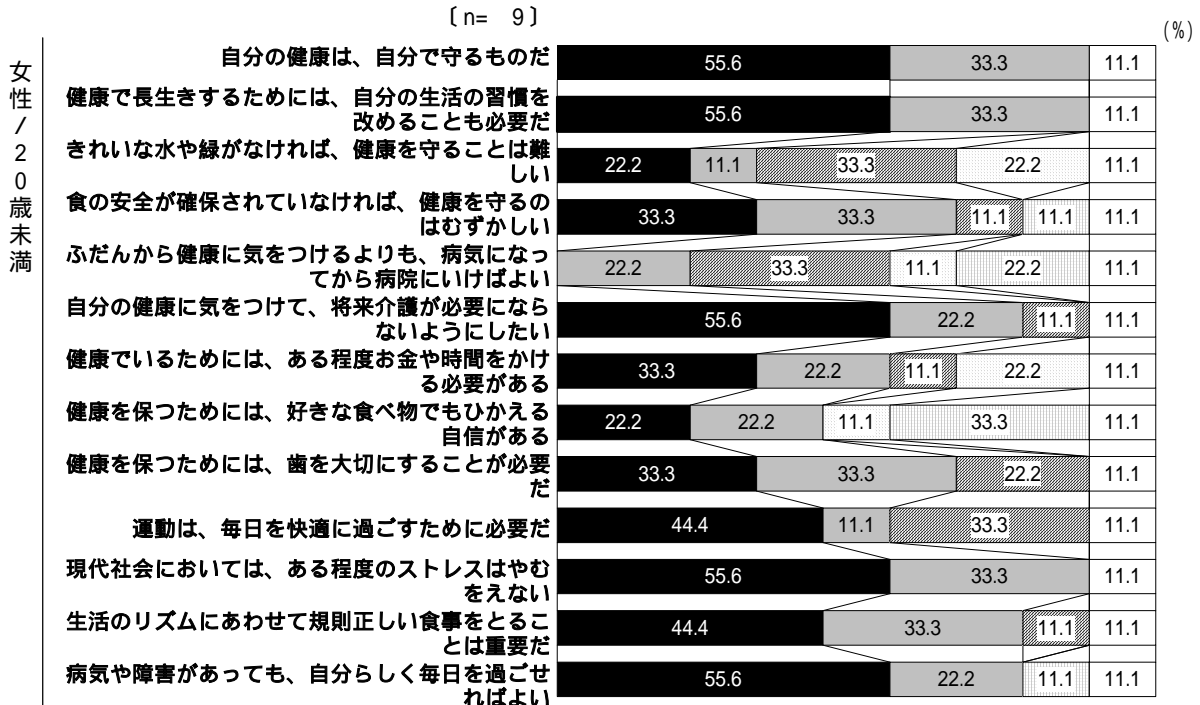
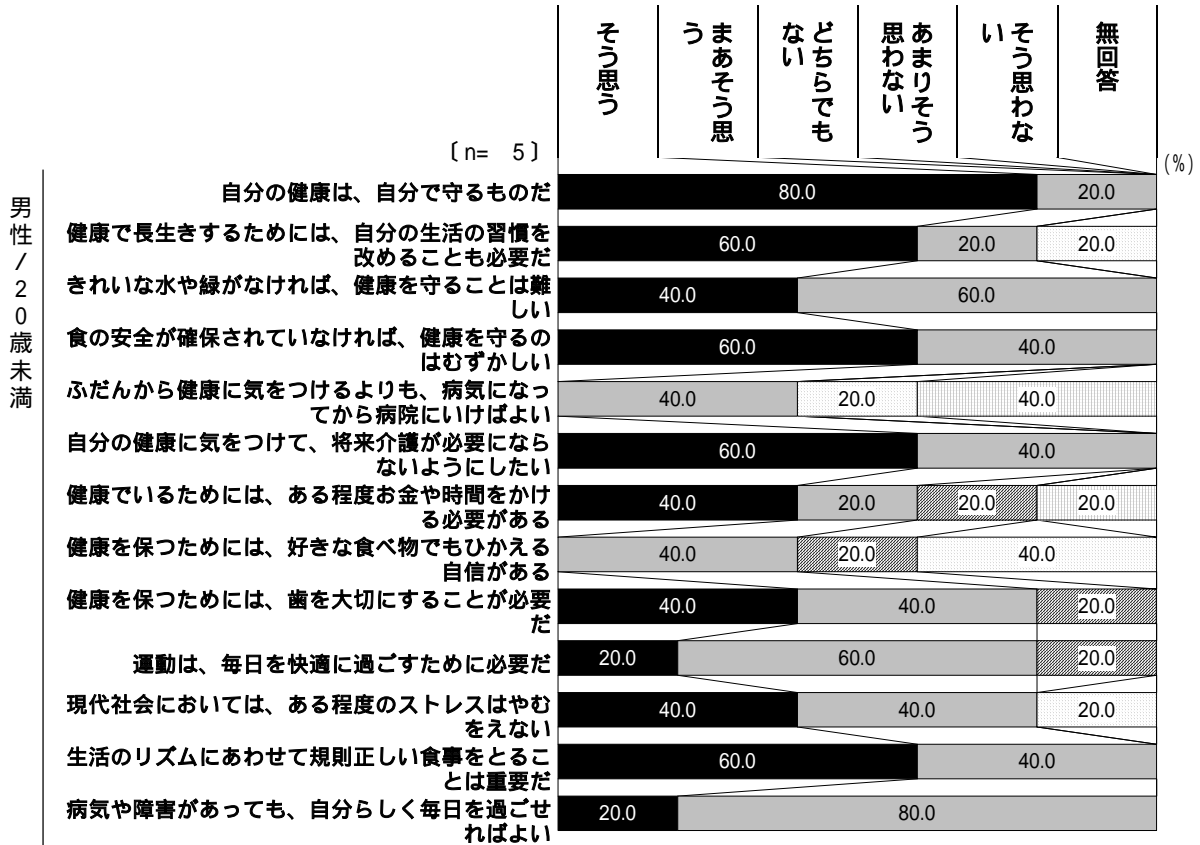
70歳代

男性にあり、女性にない項目として「食の安全が確保されていなければ、健康を守るのはむずかしい」がある。

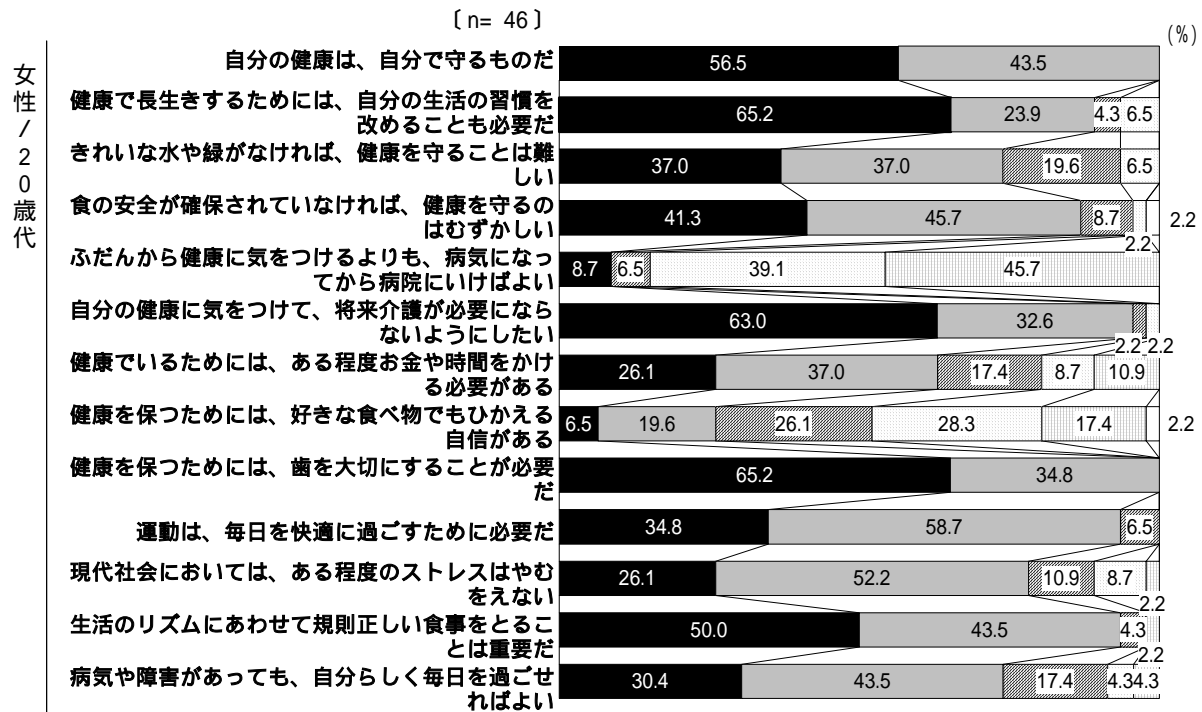
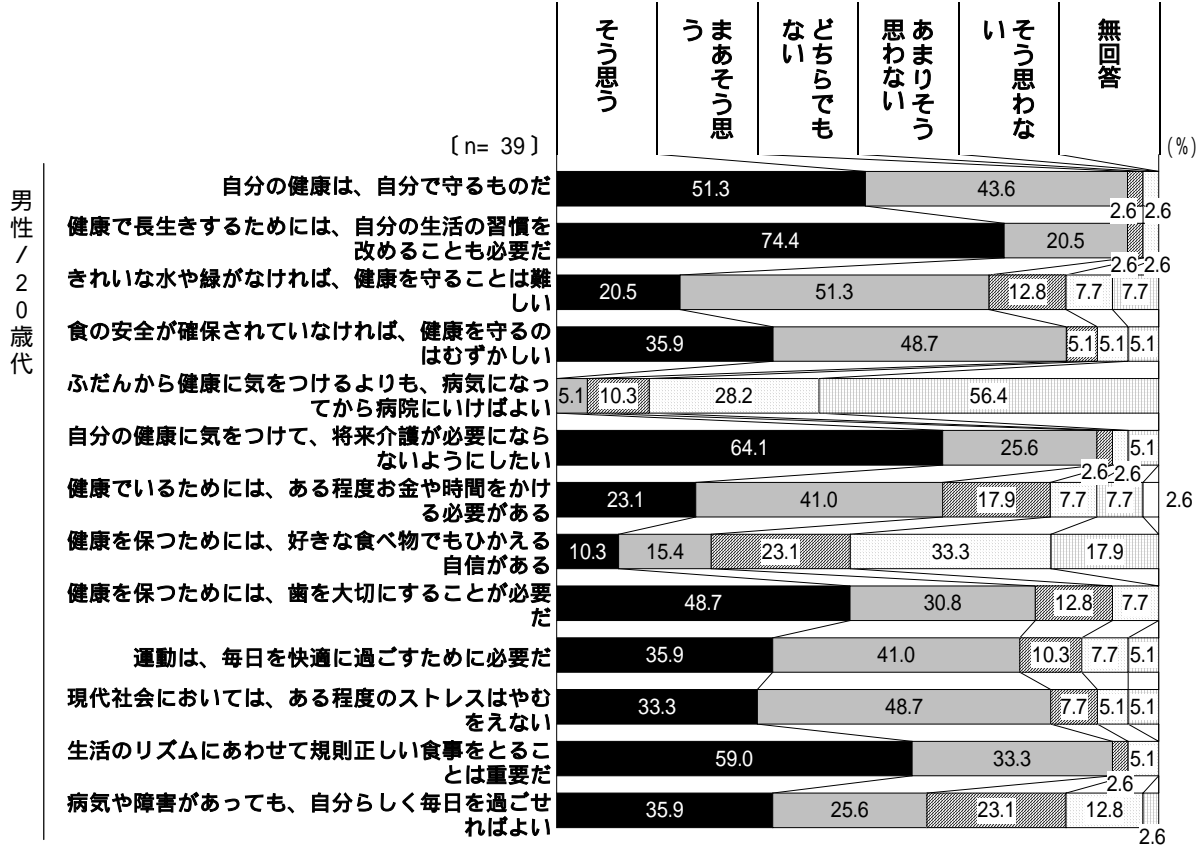
女性にあり、男性にない項目は「運動は、毎日を快適に過ごすために必要だ」である。

同じ項目を比較すると、女性の方が男性よりも高いものには、「自分の健康に気をつけて、将来介護が必要にならないようにしたい」で10ポイント、「生活のリズムにあわせて規則正しい食事をとることは重要だ」で6ポイント差などがある。

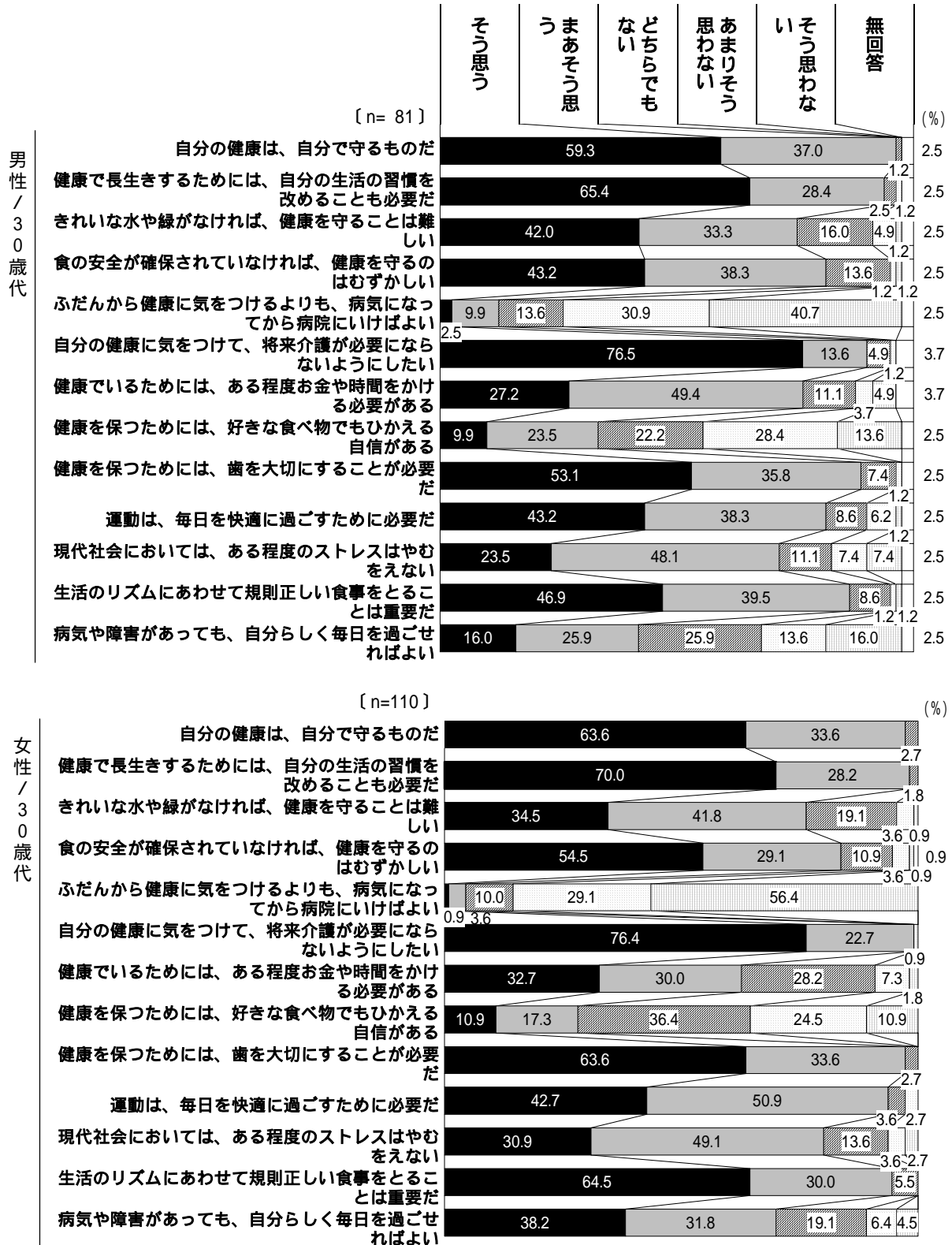
< 図表 - 2 - 12 > 20歳未満



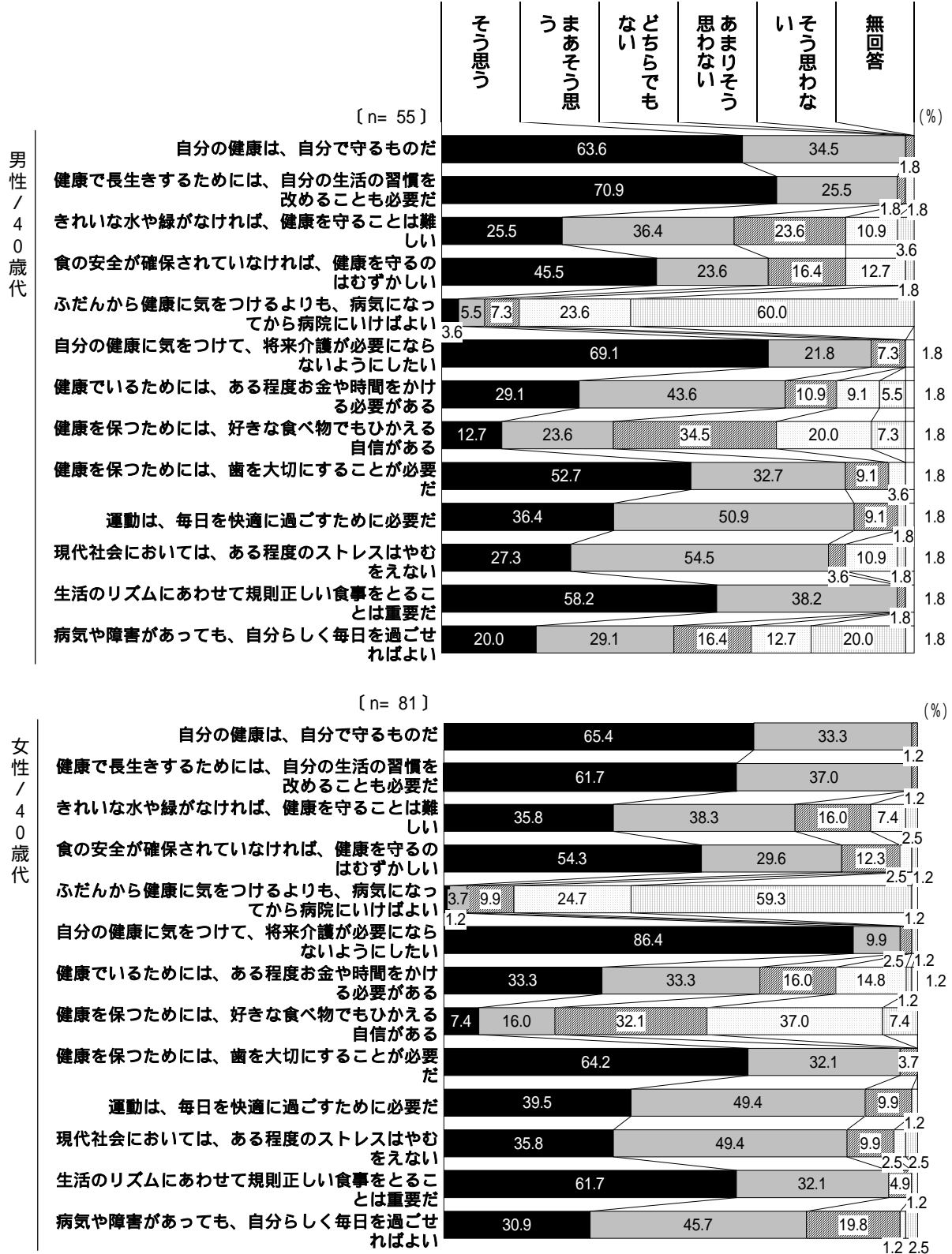
< 図表 - 2 - 13 > 20歳代



< 図表 - 2 - 14 > 30歳代

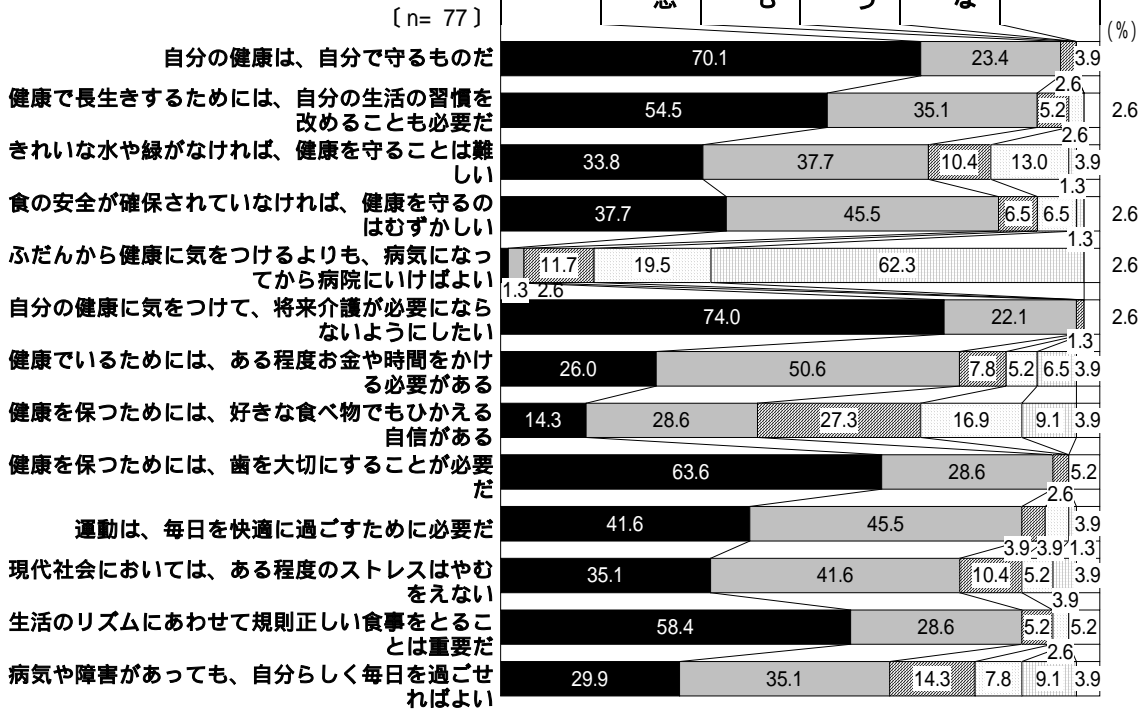


< 図表 - 2 - 15 > 40歳代

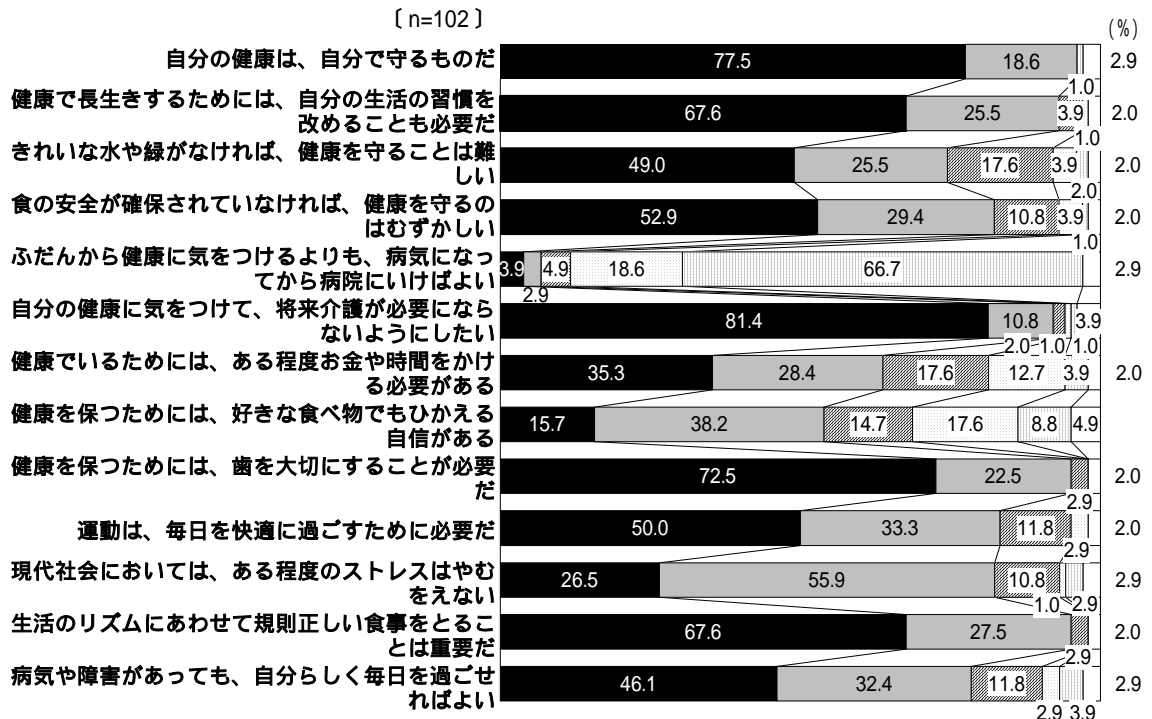


< 図表 - 2 - 16 > 50歳代

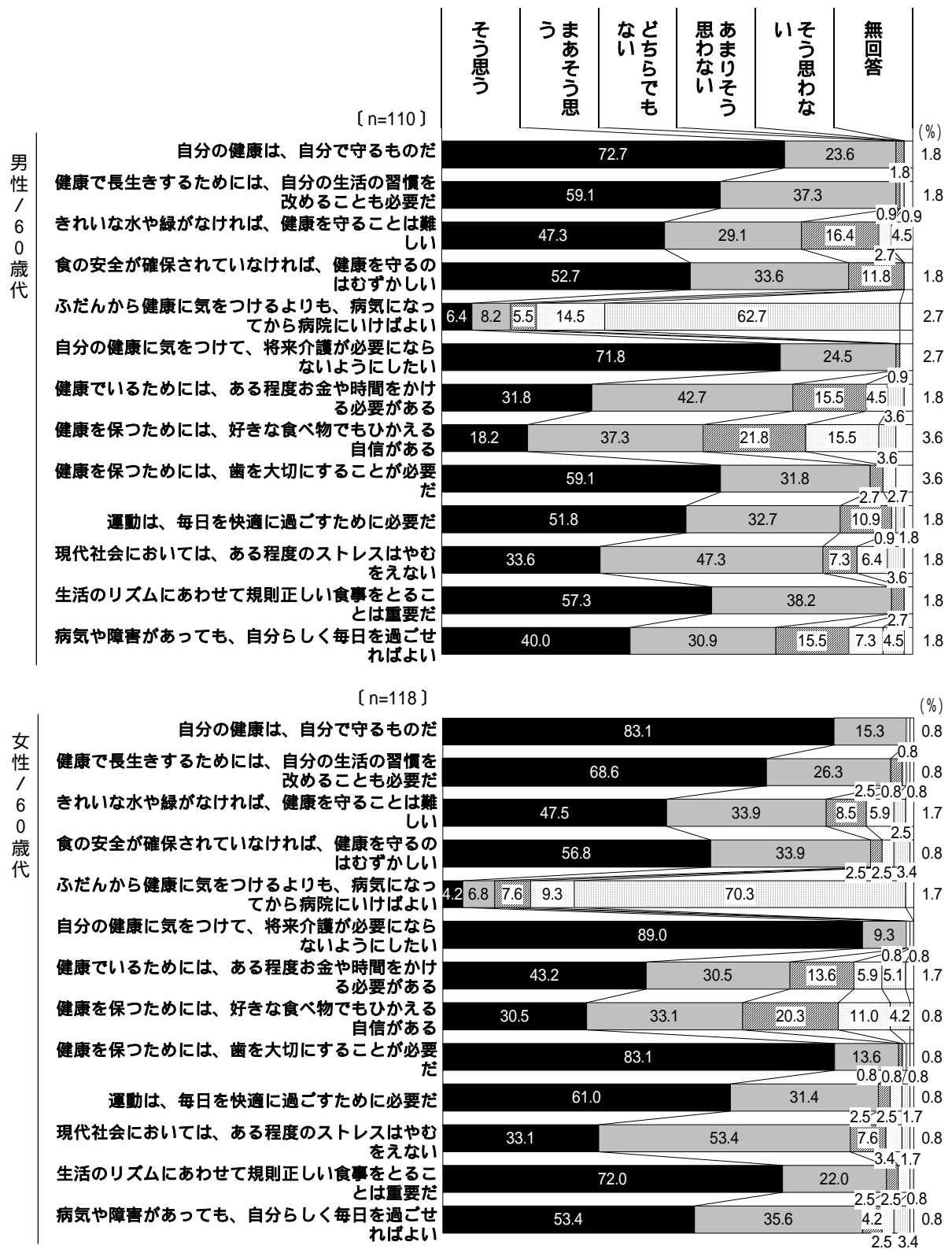
男性 / 50歳代



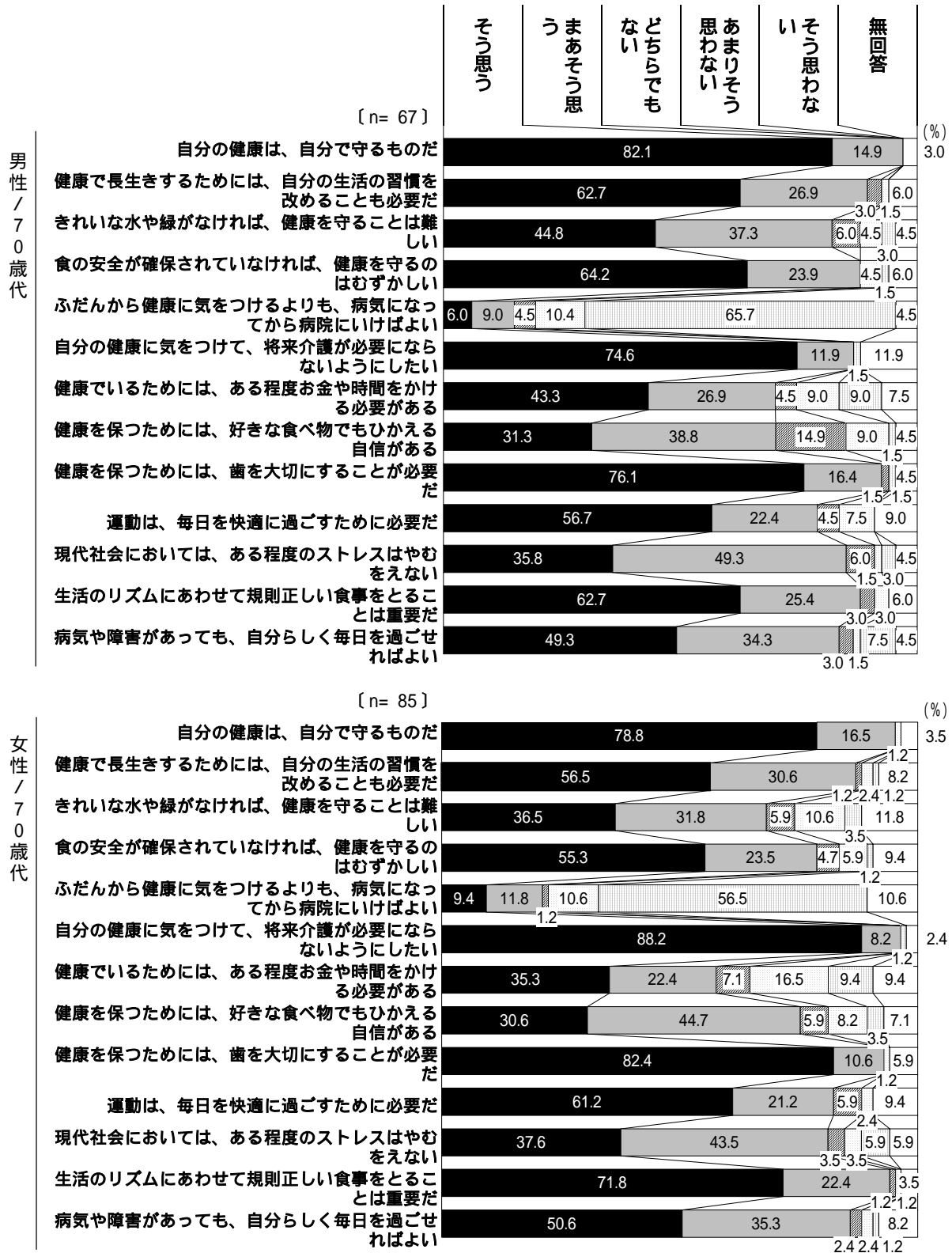
女性 / 50歳代



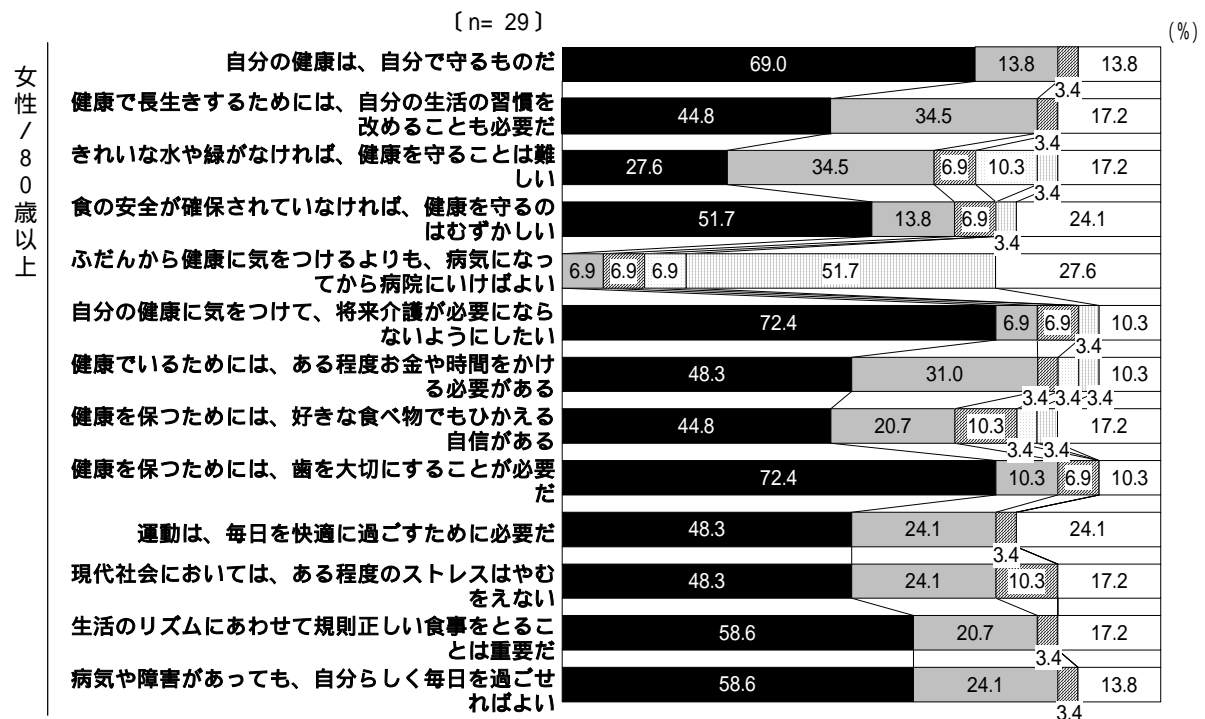
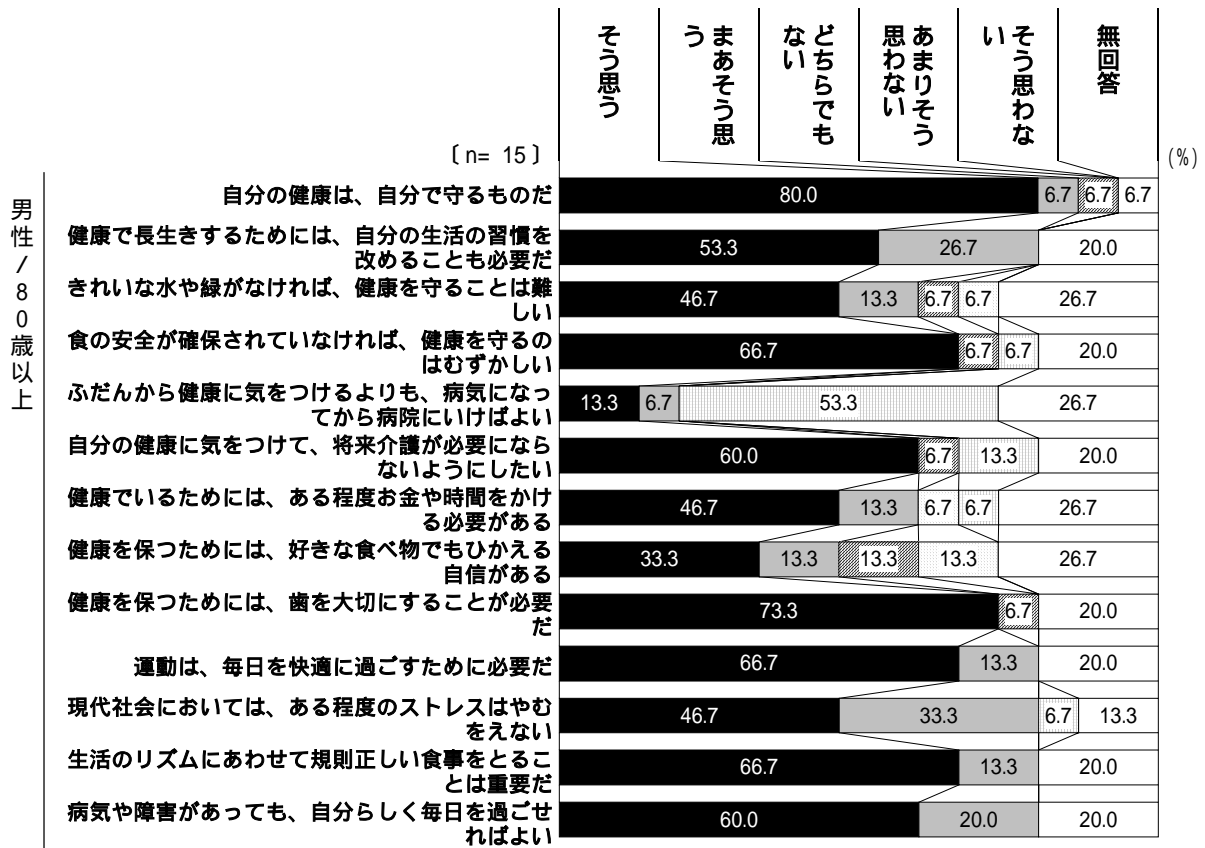
<図表 - 2 - 17> 60歳代



< 図表 - 2 - 18 > 70歳代



< 図表 - 2 - 19 > 80歳以上



【健康への不安感別】

< 図表 - 2 - 20 >

	《肯定派》 （「そう思う」+「まあそう思う」） 8割以上の項目	《否定派》 （「あまりそう思わない」+「そう思わない」） 2割以上の項目
“不安を感じる”	自分の健康は、自分で守るものだ（96.8%） 自分の生活の習慣を改めることも必要だ（95.1%） 将来介護が必要にならないようにしたい（94.3%） 歯を大切にすることが必要だ（92.5%） 規則正しい食事をとることは重要だ（92.5%） 運動は、毎日を快適に過ごすために必要だ（88.1%） 食が安全でない健康を守るのはむずかしい（83.1%） 現代では、ある程度のストレスはやむをえない（80.0%）	気をつけるより病気になってから病院に行く（78.2%） 好きな食べ物でもひかえる自信がある（26.5%）
“不安を感じない”	自分の健康は、自分で守るものだ（94.3%） 将来介護が必要にならないようにしたい（91.1%） 歯を大切にすることが必要だ（90.7%） 規則正しい食事をとることは重要だ（90.0%） 自分の生活の習慣を改めることも必要だ（87.1%） 現代では、ある程度のストレスはやむをえない（82.5%） 食が安全でない健康を守るのはむずかしい（80.7%）	気をつけるより病気になってから病院に行く（78.5%） 好きな食べ物でもひかえる自信がある（28.9%）

図表中の番号は、その層での順位を表す。

項目名に下線が引いてあるものは、“不安を感じる”と“不安を感じない”の2つの層を比べた際に、1つの層にしか含まれていない項目である。

《否定派》で「ふだんから健康に気をつけるよりも、病気になってから病院にいけばよい」の比率が高いことは、健康に関する考え方が肯定的であると捉える必要がある。

『問8 - 1 健康への不安感』の回答別でも、この設問の分析を試みた。なお、クロス集計の項目にするにあたっては、より分析を明確化するため、『問8 - 1』の選択肢を整理している。内容は、「よく感じる」と「ときどき感じる」を合わせて“不安を感じる”とし、「ほとんど感じない」と「感じない」を合わせて“不安を感じない”とした。《肯定派》と《否定派》の内容はこれまでと変わらない。

《肯定派》では、“不安を感じる”人の方が“不安を感じない”人よりも項目数が1つ多く、「運動は、毎日を快適に過ごすために必要だ」が入っている。

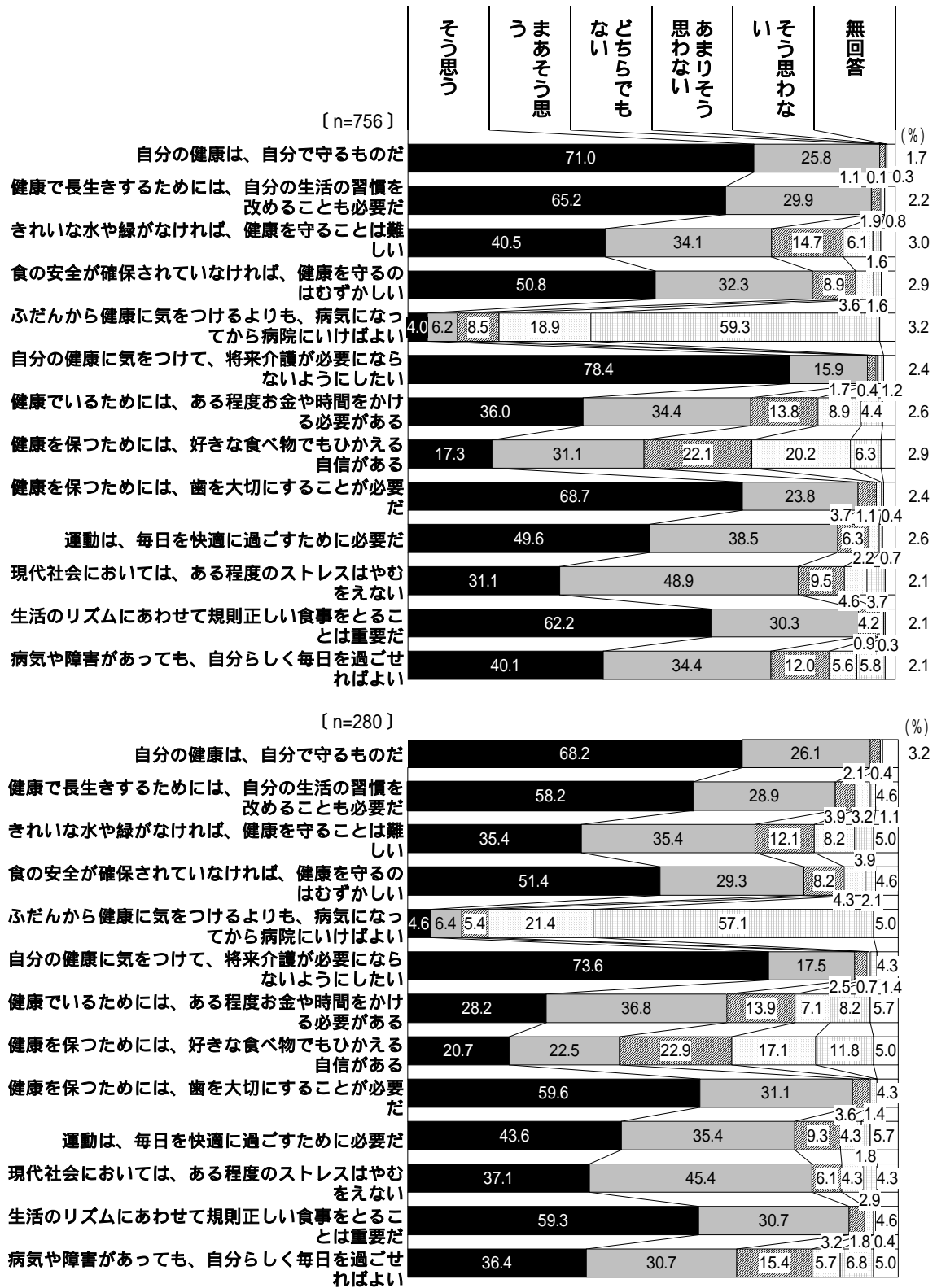
また、同じ項目で比率が目立つものをあげると、「健康で長生きするためには、自分の生活の習慣を改めることも必要だ」は、“不安を感じる”人の方が“不安を感じない”人よりも8ポイント高くなっている。

一方、《否定派》は、項目の数は変わらず、比率でも大きな違いはみられない。（図表 - 2 - 20 ~ 21）

< 図表 - 2 - 21 > 健康への不安感別

健康への不安感別 / “不安を感じる”

健康への不安感別 / “不安を感じない”



【健康状態（主観的）別】

< 図表 - 2 - 22 >

	《肯定派》 （「そう思う」+「まあそう思う」） 8割以上の項目	《否定派》 （「あまりそう思わない」+「そう思わない」） 2割以上の項目
“健康である”	自分の健康は、自分で守るものだ（96.7%） 将来介護が必要にならないようにしたい（94.8%） 規則正しい食事をとることは重要だ（93.1%） 自分の生活の習慣を改めることも必要だ（92.9%） 歯を大切にすることが必要だ（92.6%） 運動は、毎日を快適に過ごすために必要だ（88.8%） 食が安全でないと健康を守るのはむずかしい（82.8%） 現代では、ある程度のストレスはやむをえない（82.5%）	気をつけるより病気になってから病院に行く（83.2%） 好きな食べ物でもひかえる自信がある（28.4%）
普通	自分の健康は、自分で守るものだ（96.5%） 自分の生活の習慣を改めることも必要だ（93.8%） 歯を大切にすることが必要だ（93.3%） 将来介護が必要にならないようにしたい（93.0%） 規則正しい食事をとることは重要だ（91.5%） 運動は、毎日を快適に過ごすために必要だ（84.5%） 食が安全でないと健康を守るのはむずかしい（82.4%） 現代では、ある程度のストレスはやむをえない（80.6%）	気をつけるより病気になってから病院に行く（76.4%） 好きな食べ物でもひかえる自信がある（26.8%）
健康ではない	自分の健康は、自分で守るものだ（94.5%） 自分の生活の習慣を改めることも必要だ（91.8%） 規則正しい食事をとることは重要だ（91.1%） 将来介護が必要にならないようにしたい（91.1%） 歯を大切にすることが必要だ（89.1%） 食が安全でないと健康を守るのはむずかしい（82.2%） 運動は、毎日を快適に過ごすために必要だ（80.8%）	気をつけるより病気になってから病院に行く（72.6%） 好きな食べ物でもひかえる自信がある（24.7%）

図表中の番号は、その層での順位を表す。

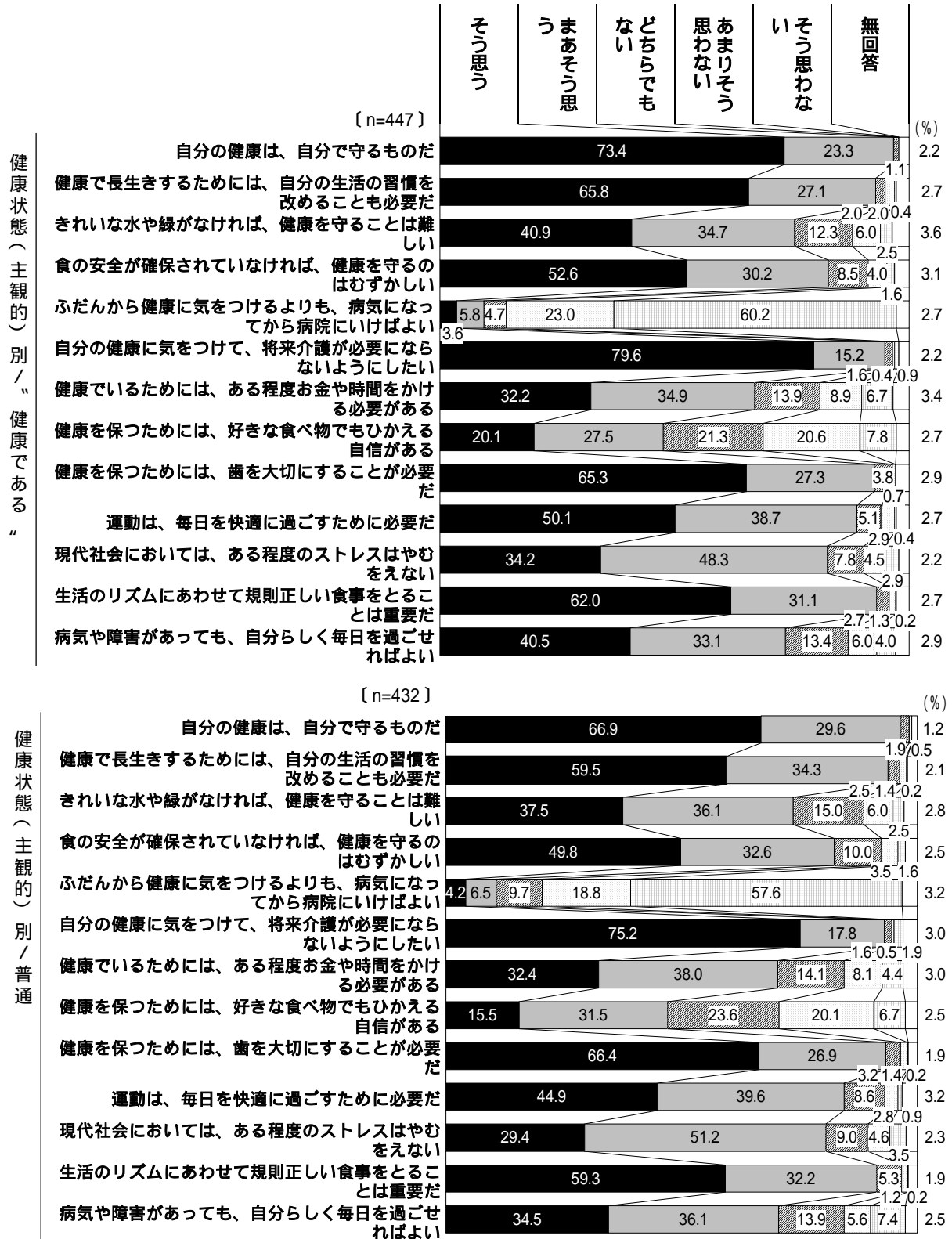
《否定派》で「ふだんから健康に気をつけるよりも、病気になってから病院にいけばよい」の比率が高いことは、健康に関する考え方が肯定的であると捉える必要がある。

『問13 健康状態（主観的）』の回答別でもこの設問を分析することとする。クロス集計の項目にするにあたっては、より分析を明確化するため、『問13』の選択肢を整理している。内容は、「非常に健康である」と「まあ健康である」を合わせて“健康である”とした。また、『問13』の“その他”については件数が少なく、判別が煩雑になるため省略している。

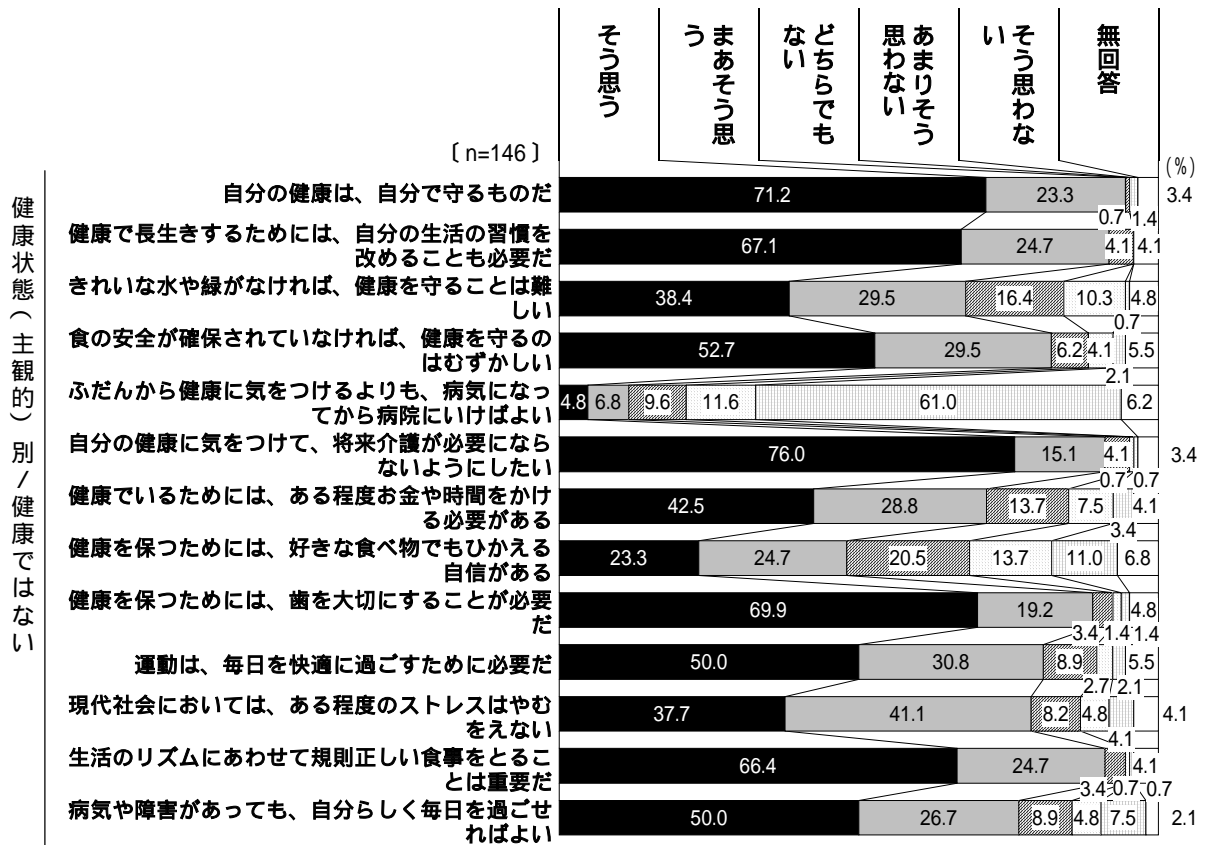
《肯定派》では、「健康ではない」で項目数が1つ少なくなっている。また、比率では、「健康で長生きするためには、自分の生活の習慣を改めることも必要だ」と「健康を保つためには、歯を大切にすることが必要だ」で、普通の人が“健康である”人を上回ることを除いては、重複する項目は健康状態（主観的）が悪くなるにつれて比率も漸減する傾向にある。

一方、《否定派》では、健康状態（主観的）による項目の違いはみられないが、いずれも健康状態（主観的）が悪くなるにつれて比率も漸減する傾向にある。（図表 - 2 - 22～24）

<図表 - 2 - 23> 健康状態（主観的）別



< 図表 - 2 - 24 > 健康状態（主観的）別



【健康に対する関心度別】

< 図表 - 2 - 25 >

	《肯定派》 （「そう思う」＋「まあそう思う」） 8割以上の項目	《否定派》 （「あまりそう思わない」＋「そう思わない」） 2割以上の項目
“ 関 心 が あ る ”	自分の健康は、自分で守るものだ（98.1%） 将来介護が必要にならないようにしたい（95.5%） 自分の生活の習慣を改めることも必要だ（95.1%） 歯を大切にすることが必要だ（94.8%） 規則正しい食事をとることは重要だ（93.7%） 運動は、毎日を快適に過ごすために必要だ（88.2%） 食が安全でないと健康を守るのはむずかしい（85.3%） 現代では、ある程度のストレスはやむをえない（82.1%）	気をつけるより病気になってから病院に行く（82.3%） 好きな食べ物でもひかえる自信がある（25.5%）
“ 関 心 が な い ”	自分の健康は、自分で守るものだ（89.1%） 規則正しい食事をとることは重要だ（89.1%） 自分の生活の習慣を改めることも必要だ（84.8%） 将来介護が必要にならないようにしたい（80.4%） 現代では、ある程度のストレスはやむをえない（80.4%）	好きな食べ物でもひかえる自信がある（58.7%） 気をつけるより病気になってから病院に行く（56.6%） 健康には、ある程度お金や時間が必要である（26.1%） <u>きれいな環境でなければ健康を守るのは難しい</u> （26.0%）

図表中の番号は、その層での順位を表す。

項目名に下線が引いてあるものは、“関心がある”と“関心がない”の2つの層を比べた際に、1つの層にしか含まれていない項目である。

《否定派》で「ふだんから健康に気をつけるよりも、病気になってから病院にいけばよい」の比率が高いことは、健康に関する考え方が肯定的であると捉える必要がある。

『問15 健康に対する関心度』の回答別でみることにする。なお、クロス集計の項目にあたっては、『問15』の選択肢を整理している。その内容は、「非常に関心がある」と「まあ関心がある」を合わせて“関心がある”とし、「あまり関心がない」と「全く関心がない」を合わせて“関心がない”とした。また、「どちらともいえない」については、分析の明確化を図るため省略している。

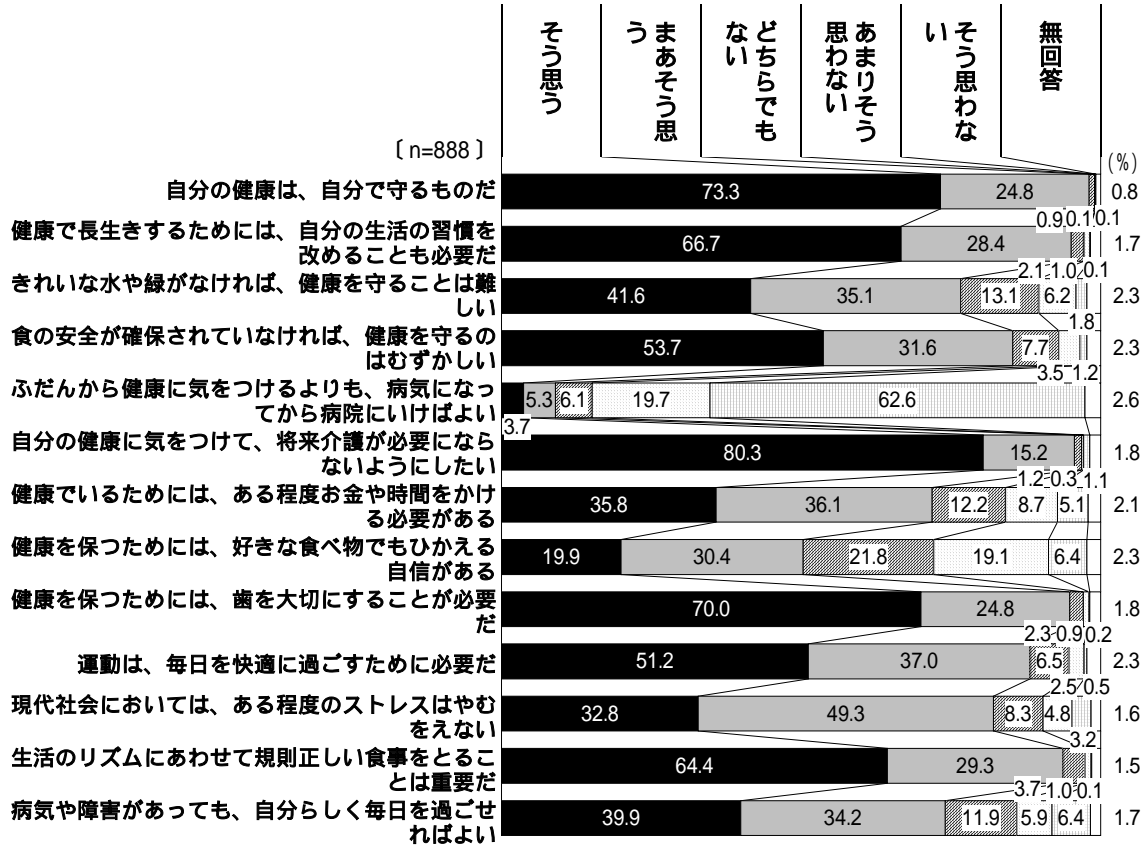
《肯定派》では、“関心がある”人の方が項目は多く、関心度による捉え方の違いが顕著である。“関心がある”人と“関心がない”人を比率で比べても、“関心がある”人の方が高くなっており、順に列挙すると「自分の健康に気をつけて、将来介護が必要にならないようにしたい」で15ポイント、「健康で長生きするためには、自分の生活の習慣を改めることも必要だ」で10ポイント、「自分の健康は、自分で守るものだ」で9ポイントの差がある。

逆に、《否定派》では、“関心がない”人の方が項目数は2つ多く、「健康でいるためには、ある程度お金や時間をかける必要がある」といった経済面、「きれいな水や緑がなければ、健康を守ることは難しい」といった環境面への項目に否定的であることが伺える。

同じ項目を比較すると、「ふだんから健康に気をつけるよりも、病気になってから病院にいけばよい」が高いことは、健康に関する考え方が肯定的であると考えられるが、“関心がある”人の方が26ポイント高い。また、「健康を保つためには、好きな食べ物でもひかえる自信がある」は“関心がない”人の方が33ポイント高く、予防意識が低いという課題がみられる。（図表 - 2 - 25～26）

< 図表 - 2 - 26 > 健康に関する関心度別

健康に対する関心度別 / “関心がある”



健康に対する関心度別 / “関心がない”

